
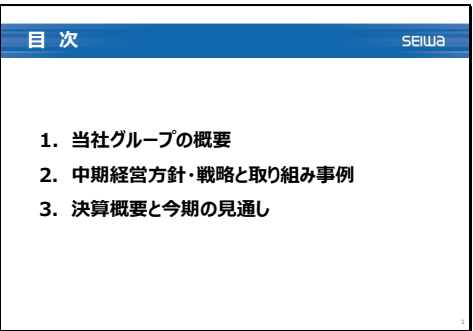
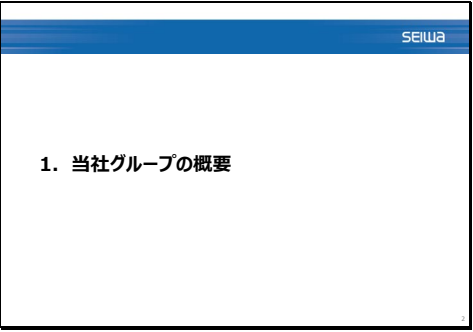



<p>スライド 1</p>		<p>それではただいまから証券コード6748 星和電機株式会社の決算説明会を 始めさせていただきます わたくしは、代表取締役の増山です。</p> <p>まず、はじめに 新型コロナウイルス感染症により お亡くなりになられた方々に 謹んでお悔やみ申し上げますとともに、 罹患された方々におかれましては 心よりお見舞い申し上げます。 また、感染拡大防止に日々ご尽力、 ご協力されている皆様に深く感謝申し上げます。</p>
<p>スライド 2</p>		<p>本日の説明会につきましては、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 当社グループの概要、</li> <li>2. 中期経営方針・戦略と取り組み事例</li> <li>3. 決算概要と今期の見通し、</li> </ol> <p>の順でご説明いたします。</p>
<p>スライド 3</p>		<p>まず当社グループの概要です。</p>
<p>スライド 4</p>		<p>当社は、1945年10月1日に京都市内で創業し、 現在は京都府の南部に位置する城陽市に 本社、工場を構えています。 資本金は36億48百万円</p> <p>支社、営業所は、国内に11拠点あり、 海外にはタイ バンコクに駐在員事務所があります。 連結子会社は、国内2社、海外3社の 合計5社であります。</p>



次に当社の事業領域ですが、

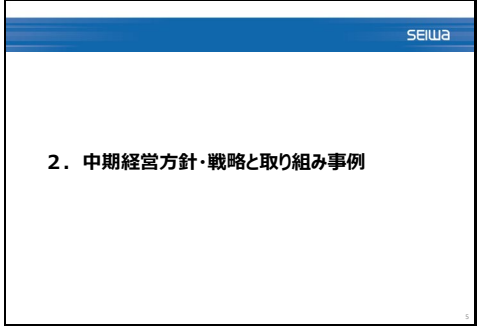
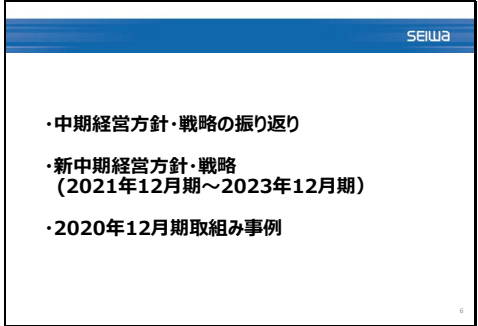
情報機器事業、照明機器事業、  
コンポーネント事業の3つのセグメントに  
分かれています。

情報機器事業の主な製品は、高速道路や  
一般道に設置されている  
道路情報表示板やトンネル防災システム、  
LED式信号機、河川情報板などになります。  
主要顧客は官公庁関連組織となります。

次に照明機器事業ですが、  
公共設備関連と民間設備関連に大別でき、  
まず公共設備関連の主な製品は  
トンネル照明、道路照明で、  
主要顧客は官公庁関連組織となります。  
続いて民間設備関連ですが、  
主な製品は、防爆形の照明器具や  
その他の特殊環境で必要な  
防水・密閉形照明器具などの  
工場施設向けの照明器具になります。  
照明用モジュール製品は照明器具への組みみや  
鉄道車両向けなどで実績を伸ばしています。

最後にコンポーネント事業ですが、  
こちらも樹脂製製品の配線保護機材と  
電磁波環境対策部品に大別できます。  
主な製品は、  
配電盤や機械内部の配線整理や  
配線保護に使用される配線ダクトで  
ブランド名のカッチングダクトは  
配線ダクトの代名詞ともなっています。  
そのほか、ケーブルグラウンドのエスシーロックや  
、床面や壁面配線用の保護ダクトの  
UDプロテクタなどになります。  
続いて電磁波環境対策部品の主な製品は、  
フェライトコア、ガスケット、フィンガー  
などになります。

以上、当社の事業概要を説明いたしました。

<p>スライド 6</p>		<p>続きましてここからは、 中期経営方針・戦略と取り組み事例についてご説明いたします。</p>
<p>スライド 7</p>		<p>・中期経営方針・戦略の振り返り ・2021年12月期からの新中期経営方針・戦略 ・2020年12月期の取り組み事例</p> <p>でご説明いたします。</p> <p>まず、中期経営方針と戦略の振り返りについてご説明いたします。</p> <p>当社は、中期経営方針、経営戦略に基づいて経営を行っておりますが、当社の業績は、公共設備関連分野の割合が多く、国や地方公共団体の予算執行に大きく影響を受けるため、中期的な数値目標を公表することが、必ずしも株主の皆様の判断・評価に資するものではないとの見地から、開示は行っておりません。</p> <p>しかしながら、単年度予想と実績との乖離に関しましては、原因分析を行っており、決算発表等を通じ、開示・説明を行っております。</p> <p>それでは、各年度の期初予想値と実績との乖離と原因分析についてご説明いたします。</p>

スライド

8

中期経営方針・戦略の振り返り①		SEIWA		
2019年3月期（2018年4月1日～2019年3月31日）				
	期初予想値	実績値	増減額	増減率(%)
売上高	23,800	20,390	△3,409	△14.3
情報機器	9,500	6,963	△2,536	△26.7
照明機器	7,700	7,177	△522	△6.8
コンポーネント	5,800	5,340	△459	△7.9
その他	800	909	109	13.6
営業利益	950	1	△948	△99.8
経常利益	900	△14	△914	—
親会社株主に帰属する当期純利益	680	213	△466	△68.7
営業利益率	4.0%	0.0%	△4.0PT	—
R O E	6.5%	2.0%	△4.5PT	—

中期経営方針初年度の2019年3月期

売上高は予想値に対し14.3%

減となりました。

営業利益は99.8%減、

経常利益は101.6%減、

親会社株主に帰属する

当期純利益は68.7%減となりました。

これは、LED照明器具の売上と

配線保護機材の売上は増加したものの、

公共設備関連の道路情報機器と

トンネル照明器具の売上が

発注時期の遅延および発注量の減少、

受注案件の小型化などにより

減少したことによるものです。

スライド

9

中期経営方針・戦略の振り返り②		SEIWA		
2020年3月期（2019年4月1日～2020年3月31日）				
	期初予想値	実績値	増減額	増減率(%)
売上高	23,800	26,091	2,291	9.6
情報機器	9,500	12,132	2,632	27.7
照明機器	7,700	8,124	424	5.5
コンポーネント	6,200	5,249	△950	△15.3
その他	400	585	185	46.4
営業利益	1,000	1,289	289	28.9
経常利益	950	1,275	325	34.3
親会社株主に帰属する当期純利益	700	1,105	405	57.9
営業利益率	4.2%	4.9%	0.7PT	—
R O E	6.5%	10.2%	3.8PT	—

2年目の2020年3月期の売上高は

予想値に対し9.6%増となりました。

営業利益は28.9%増、

経常利益は34.3%増、

親会社株主に帰属する当期純利益は

57.9%増となりました。

これは、期初受注残高が例年に比べ

増加したことに加え、

国土強靱化対策を背景に

公共設備関連の道路情報機器と

トンネル照明器具の期中の受注が

順調に推移して

売上が大きく増加し、

民間設備関連のLED照明器具や

照明用LEDモジュール製品、

エアコン用配管保護機材等も

売上が増加したことによるものです。

スライド

10

中期経営方針・戦略の振り返り③		SEIWA		
2020年12月期 (2020年4月1日～2020年12月31日)		(単位：百万円)		
	期初予想値	実績値	増減額	増減率(%)
売上高	17,200	18,297	1,097	6.4
情報機器	7,500	8,082	582	7.8
照明機器	5,500	5,882	382	7.0
コンポーネント	4,000	4,040	40	1.0
その他	200	292	92	46.3
営業利益	300	695	395	131.8
経常利益	270	673	403	149.6
親会社株主に帰属する当期純利益	150	612	462	308.3
営業利益率	1.7%	3.8%	2.1PT	—
R O E	1.3%	5.3%	4.0PT	—

最終年度の2020年から決算期を12月期に変更いたしました。2020年12月期の売上高は予想値に対し6.4%増となりました。営業利益は131.8%増、経常利益は149.6%増、親会社株主に帰属する当期純利益は308.3%増となりました。

これは、前年と同様に期初の受注残高が多く、公共設備関連の道路情報機器とトンネル照明器具の売上が増加したことによるものです。

この3か年では、民間設備関連においても新型コロナウイルスの感染拡大状況によって予断を許さない、きわめて不透明な状況が続いています。公共設備関連では受注案件の出来高が年度業績に大きな影響を与える状況となっており、今後はさらに戦略的・組織的な活動が必要となります。

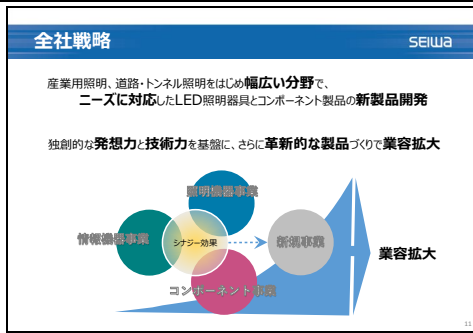
スライド

11

新中期経営方針・戦略		SEIWA		
<b>“インテリジェント・プロダクト”を実現し、 高い製造力を実現する。</b>				

それでは、2021年12月期からの新中期経営方針についてご説明いたします。

新中期経営方針は「“インテリジェント・プロダクト”により、高い製造力を実現する。」です。環境の変化はコロナ禍を機に更にスピードを増しています。今まで以上に社員一人一人があるべき姿を描き実践していくことを繰り返し、変化に対し改善を繰り返し業務水準を上げていくことが必要となります。



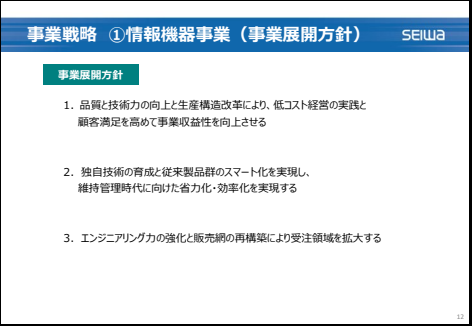
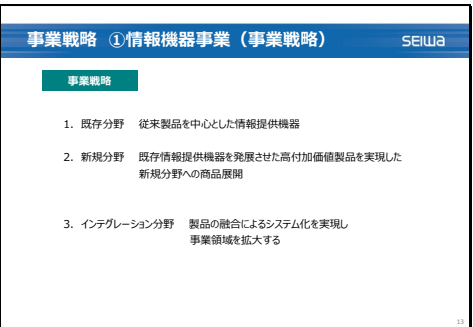
次に全社戦略についてですが  
 当社は従来より社会の発展に  
 寄与する独創的な商品、  
 省エネルギーを実現する  
 商品開発により、地球環境保護  
 に向けた取り組みを進めて  
 まいりました。

3つの事業の技術の強みを活かし、  
 そして産学共同研究など  
 お互いの技術やノウハウを活用し、  
 新製品、サービスの提供  
 新規事業の創出に  
 取り組んでまいります。

その中で情報機器事業では、  
 高速道路、一般道路の  
 インフラ整備において、  
 高度情報化の  
 コミュニケーションツールとして  
 あらゆるシーンへの対応を積極的に  
 展開してまいります。

照明機器事業とコンポーネント  
 事業においては、  
 お客様のニーズや要望に応じて、  
 さらなる新規製品の開発に  
 取り組んでまいります。

そして、各事業において、  
 今後も、これまでに培ってきた  
 独創的な発想力と技術力を基盤に、  
 さらに革新的な製品づくりに取り組み  
 業容の拡大に努めてまいります。

<p>スライド 13</p>		<p>情報機器事業の事業展開方針</p> <p>につきましては</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・品質と技術力の向上と 生産構造改革により、 低コスト経営の実践と 顧客満足を高めて 事業収益性を向上させる</li> <li>・独自技術の育成と 従来製品群のスマート化を実現し、 維持管理時代に向けた 省力化・効率化を実現する</li> <li>・エンジニアリング力の強化と 販売網の再構築により 受注領域を拡大する</li> </ul>
<p>スライド 14</p>		<p>事業戦略につきましては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存情報提供機器を発展させた 高付加価値製品を実現し、 新規分野への商品展開を行う</li> <li>・インテグレーション事業 の分野で、情報機器と 照明機器製品の融合による システム化を実現し 事業領域を拡大する</li> </ul> <p>以上の方針、戦略を行ってまいります。</p>

<p>スライド 15</p>	<div data-bbox="225 103 699 427" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>事業戦略 ②照明機器事業（事業展開方針）</b> SEIWA</p> <p><b>事業展開方針</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多機能製品、システム製品を増強し、差別化と高付加価値提供を実現する</li> <li>2. 新事業領域の拡大により、売上・事業収益を増やす</li> <li>3. 合理的かつ高品質のものづくりを追求し、顧客満足の向上と収益体質の強化を図り、事業収益を増やす</li> <li>4. 新事業領域の創出による事業拡大</li> <li>5. 複合機能製品、システム製品へのシフトにより、市場創出と参入による事業拡大</li> </ol> </div>	<p>次に照明機器事業の事業展開方針につきましては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多機能製品、システム製品を増強し、差別化と高付加価値提供を実現する</li> <li>・新事業領域の拡大により、売上・事業収益を増やす</li> <li>・合理的かつ高品質のものづくりを追求し、顧客満足の向上と収益体質の強化を図り、事業収益を増やす</li> <li>・新事業領域の創出により事業を拡大する</li> <li>・複合機能製品、システム製品へのシフトにより、市場創出と参入により事業を拡大する</li> </ul>
<p>スライド 16</p>	<div data-bbox="225 918 699 1243" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>事業戦略 ②照明機器事業（事業戦略）</b> SEIWA</p> <p><b>事業戦略</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 官需照明 公共インフラ分野における道路・トンネル・街路関連と防災セキュリティ関連市場の照明機器</li> <li>2. 民需照明 新たな製品カテゴリの創出 生産拠点の最適化と生産性の向上</li> <li>3. モジュール 医療機器・機械装置・特殊環境・インフラ関連市場の開拓と事業拡大 ものづくり改革による収益性の改善</li> <li>4. 新規事業領域の創出 光応用分野における新技術の獲得 システム製品、多機能製品の増強 照明+αの実現</li> <li>5. 海外 OUT-OUT ビジネスを確立し事業収益を確保する</li> </ol> </div>	<p>事業戦略につきましては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・官需照明関連では 公共インフラにおける道路・トンネル・街路関連と防災セキュリティ関連市場の照明機器を展開</li> <li>・民需照明関連では 新たな製品カテゴリの創出 生産拠点の最適化と生産性の向上</li> <li>・モジュール関連では 医療機器・機械装置・特殊環境・インフラ関連市場の開拓と事業拡大 ものづくり改革による収益性の改善</li> <li>・新規事業領域の創出として 光応用分野における新技術の獲得 システム製品、多機能製品の増強 照明+αの付加価値の追求</li> <li>・海外 OUT-OUT ビジネスを確立し 事業収益を確保</li> </ul> <p>以上の方針、戦略を行ってまいります。</p>



<p>スライド 17</p>	<div data-bbox="225 107 699 427"> <p><b>事業戦略 ③コンポーネント事業（事業展開方針）</b> SEIWA</p> <p><b>事業展開方針</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業領域としては B to B で目下ニッチ市場(ニッチトップ)にハードとソフト、システム展開とエンジニアリング領域(評価技術、暗室ソリューション等)の両輪により事業基盤を強化</li> <li>2. 既存コア技術の単機能から複合機能への転換を図り新市場領域の創出と参入による事業拡大</li> <li>3. 材料開発、高機能製品化（付加価値製品）及び新技術の研究、新分野領域への技術力強化（5G、IoT、スマートグリッド、AI、ロボティクス等）</li> </ol> </div>	<p>最後にコンポーネント事業の事業展開方針につきましては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業領域として、B to B で且つニッチ市場のニッチトップを目指しハードとソフト、システム展開とエンジニアリング領域の両輪により事業基盤を強化する</li> <li>・既存コア技術の単機能から複合機能への転換を図り新市場領域の創出と参入による事業の拡大を目指す</li> <li>・材料開発、高機能製品化及び新技術の研究、新分野領域への開発技術力を強化する</li> </ul>
<p>スライド 18</p>	<div data-bbox="225 1012 699 1339"> <p><b>事業戦略 ③コンポーネント事業（事業戦略）</b> SEIWA</p> <p><b>事業戦略</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. EMC・熱対策部品 材料開発、要素技術開発を加速させ、自動車関連、インフラ関連、医療機器、装置機器等</li> <li>2. 機構部品・部材 材料開発、複合製品開発を中心に、インフラ関連（通信、機械装置産業）、防災セキュリティ市場（カメラ等）、農業関連等</li> </ol> </div>	<p>事業戦略につきましては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・EMC・熱対策部品関連では、材料開発、要素技術開発を加速させ、自動車関連、インフラ関連、医療機器、装置機器等に展開する</li> <li>・機構部品・部材関連では、材料開発、複合製品開発を中心に、通信、機械装置産業等のインフラ関連、カメラ等の防災セキュリティ市場、農業関連等に展開する</li> </ul> <p>以上の方針、戦略を行ってまいります。</p>

スライド

19

**取組み事例① 「音声」による注意喚起システム** SEIWA

**Information System**  
情報機器事業

「この先、急カーブ！」という音声で効果的な交通事故防止対策

注意喚起を行いたい範囲に限定して音声が届く指向性スピーカーの開発  
6基の指向性スピーカーをカーブの手前に設置し、「この先、急カーブ」という聴覚情報をドライバーに提供



2019年8月から試行を開始し、試行開始前後の速度変化を分析した結果、聴覚情報提供後は車両速度が4%低下し、事故発生なし。

それでは、

2020年12月期の  
各事業の取組み事例について  
ご説明いたします。

まず情報機器事業の  
高速道路の安全走行への貢献事例です。

これまでは文字や図を用いた  
視覚情報が中心だった  
ドライバーへの情報提供  
の新しい手段として  
音声によってドライバーへ  
注意喚起を促すシステムと、  
流したい範囲に限定して音声が届く  
指向性スピーカーを開発し  
納入いたしました。

カーブ手前から「この先、  
急カーブ」という「音声」を  
ドライバーに伝えることで、  
ドライバーに注意喚起を促した結果、  
設置以後の事故発生が無くなるなどの  
効果を得ることができました。

スライド

20

**取組み事例② UV-Cソリューション製品の拡充** SEIWA

**Lighting**  
照明機器事業

除菌・衛生関連等、新規市場開拓の取組みを促進させるために、UV-Cソリューション製品のラインアップの充実を図るとともに、UV-LEDにかかる技術開発の促進、製品開発を行いました。

①新製品  
空間除菌用 表面除菌用



②開発中の製品  
表面除菌用 流水除菌用



③現行販売品  
空間および表面除菌用製品



次に、照明機器事業での  
取組み事例として、  
UVCソリューション製品の  
ラインアップ拡充について  
ご説明いたします。

当社は、従来より照明機器  
製品として、  
UVCソリューション製品の  
開発、販売を行ってまいりました。  
この度、除菌・衛生関連など  
新規市場開拓の取組みを  
促進させるために、  
専門のプロジェクトを立ち上げ、  
UVCソリューション製品の  
ラインアップの充実を図るべく、

UV-LEDにかかる  
技術開発の促進、製品開発  
を行いました。

新製品のラインアップについて  
ご説明いたします。

空間除菌用の間接照射型  
空気除菌装置および  
空気循環式紫外線清浄器と  
表面除菌用の防水形紫外線  
照射LEDモジュールです。



防水形紫外線照射LEDモジュールは  
光源にLEDを使用したことで  
非常にコンパクトな形状で、  
これまでスペースの関係で  
搭載できなかった  
小型装置にも除菌機能を  
追加できます。

これら新製品は2021年4月から  
販売を予定しております。

次に、UV-LED製品の開発  
についてご説明いたします。

現在、紫外線照射LEDモジュールを元に  
高付加価値の製品を開発しています。  
高出力タイプの紫外線照射  
LEDモジュールと流水除菌モジュールです。

これからも照明機器事業では、  
安心・安全・快適で  
省エネルギーな「光」による  
ソリューションを展開し、  
複合技術を活用して付加価値  
の高い製品とサービスを提供いたします。

<p>スライド 21</p>		<p>では、コンポーネント事業での ノイズ対策新製品と測定設備 の強化について ご説明いたします。</p> <p>当社は1997年以来、ノイズ対策製品の 開発・製造・技術支援を行ってまいりました。</p> <p>2020年12月期は、 車載機器にも使用できる磁界ノイズ対策製品 「磁界シールドシート」の開発、販売を行いました。</p> <p>また従来から保有する車載機器のエミッション試験も可能 な3m法電波暗室に加え、 2021年5月には 40GHzまで測定可能な10m法対応大型電波暗室を新設し、 測定技術と対策技術により新たなソリューションを お客様に提供をしております。</p>
<p>スライド 22</p>		<p>それでは、続いて納入事例を紹介いたします。 照明機器事業の街路照明の納入についてです。</p> <p>京都市では昭和61年度より、 美しい景観保全と安心・安全な 道路空間の創造を目的として 「無電柱化」事業に取り組みされており、 その事業に合わせて 景観と調和する街路照明を 先斗町通の北工区に納入しました。 光源は水銀ランプからLEDとなることで、 省電力・長寿命が可能になります。 デザインは先斗町の店先を彩る提灯を模しており、 下から見上げると先斗町の紋である 千鳥が3羽並んでいます。 先斗町の風情を損なわないよう、 明るさや見え方を工夫した製品となっております。</p> <p>世界に通じる京都ブランド 京都企業としてモノ作りで 新しい価値を提供して参ります。</p>

## 取組み事例④ ダイバーシティ経営の推進

SEIWA

多様な人材や価値観を尊重する「ダイバーシティ経営」を推進

## 1. 定年年齢を60歳から65歳に引き上げ

- ・再雇用ではなく、定年年齢を65歳へ
- ・誰もが安心して活躍できる会社へ前進

## 2. 時間単位の年次有給休暇制度の導入

- ・年間40時間を1時間単位で取得可能
- ・各従業員の生活スタイルに合った形の休暇制度の実現

22

最後に、当社のダイバーシティ経営の推進における取組み事例についてご説明いたします。

2021年1月1日より、

全社員を対象に従業員の定年年齢を

60歳から65歳に引き上げました。

2006年度より、高齢者雇用確保措置に対応して

シニア社員制度を設け、

60歳で定年を迎えた社員の再雇用を図っておりましたが、この制度では、経験豊富なシニア社員が意欲的に働くには課題がありました。

今回の制度では、60歳時と

遜色のない報酬・待遇維持による

モチベーションアップを実現することで、

60歳代の戦力強化が期待でき、

これまで培ってきた技術、

ノウハウの継承、活用など、

今後の経営体質強化に

つながるものと確信しています。

また、2020年4月より、

ワークライフバランス向上につながる取組みとして、

時間単位で有給休暇を取得できる制度を導入しました。

自身の通院、子育てや介護など従業員の様々な

事情に合わせて、柔軟に休暇を取ることができます。

当社は、今回の定年年齢の引き上げや

休暇制度をはじめ、

多様な人材や価値観を尊重する

「ダイバーシティ経営」を推進し、

安全を技術でお届けする様々な製品や技術、


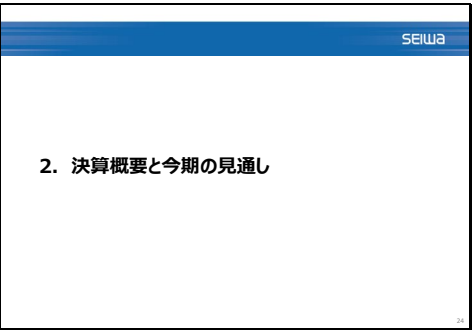
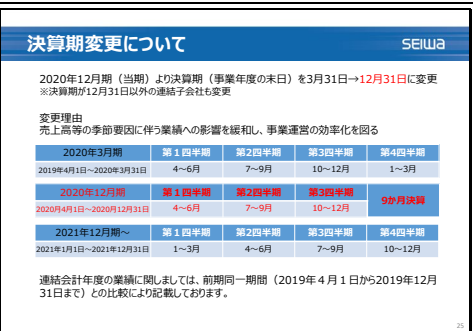
サービスでこれからも社会貢献できるよう努めてまいります。

さらに仕事を通して喜び、信頼、信用を感じ、

長く活躍できる「わくわくする楽しい会社、

面白い会社」を

目指してまいります。

<p>スライド 24</p>		<p>続きましてここからは 2020年12月期の決算概要と 今期の見通しについて 説明いたします。</p>																														
<p>スライド 25</p>		<p>事業戦略本部の寺垣です。</p> <p>続きましてここからは 2020年12月期の決算概要と 今期の見通しについて 説明いたします。</p>																														
<p>スライド 26</p>	 <p><b>決算期変更について</b></p> <p>2020年12月期（当期）より決算期（事業年度の末日）を3月31日→12月31日に変更 ※決算期が12月31日以外の連結子会社も変更</p> <p>変更理由 売上高等の季節要因に伴う業績への影響を緩和し、事業運営の効率化を図る</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>2020年3月期</th> <th>第1四半期</th> <th>第2四半期</th> <th>第3四半期</th> <th>第4四半期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2019年4月1日～2020年3月31日</td> <td>4～6月</td> <td>7～9月</td> <td>10～12月</td> <td>1～3月</td> </tr> <tr> <th>2020年12月期</th> <th>第1四半期</th> <th>第2四半期</th> <th>第3四半期</th> <th>9か月決算</th> </tr> <tr> <td>2020年4月1日～2020年12月31日</td> <td>4～6月</td> <td>7～9月</td> <td>10～12月</td> <td></td> </tr> <tr> <th>2021年12月期～</th> <th>第1四半期</th> <th>第2四半期</th> <th>第3四半期</th> <th>第4四半期</th> </tr> <tr> <td>2021年1月1日～2021年12月31日</td> <td>1～3月</td> <td>4～6月</td> <td>7～9月</td> <td>10～12月</td> </tr> </tbody> </table> <p>連結会計年度の業績に関しましては、前期同一期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）との比較により記載しております。</p>	2020年3月期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	2019年4月1日～2020年3月31日	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	2020年12月期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	9か月決算	2020年4月1日～2020年12月31日	4～6月	7～9月	10～12月		2021年12月期～	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	2021年1月1日～2021年12月31日	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	<p>当社は当連結会計年度より 決算期を3月31日から12月31日に 変更いたしました。</p> <p>変更理由は、 情報機器事業および照明機器事業は、 事業の特性上毎年1月から3月が 繁忙期に当たるため、売上高などの 季節要因に伴う業績への影響を緩和し、 事業運営の効率化を図るとともに、 業績などの経営情報の適時・適切な 開示による経営の透明性を向上 させるとして、決算期を変更 するものであります。</p> <p>このため、経過期間となる 2020年12月期は、2020年4月1日 から2020年12月31日までの 9か月決算となります。</p> <p>以下、今期の業績に関しましては、 前期同一期間 2019年4月1日から 2019年12月31日までとの 比較により記載しております。</p> <p>なお、以降の説明では前期同一期間を 前年同期とさせていただきます。</p>
2020年3月期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期																												
2019年4月1日～2020年3月31日	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月																												
2020年12月期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	9か月決算																												
2020年4月1日～2020年12月31日	4～6月	7～9月	10～12月																													
2021年12月期～	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期																												
2021年1月1日～2021年12月31日	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月																												

決算サマリー		SEIWA			
<p>■ 売上高 前年同一期間(2020年3月期第3四半期)より18.6%増加                      増加：公共設備関連の道路情報表示システムおよびトンネル照明器具、民間設備関連の産業用照明器具 他                      減少：照明用LEDモジュール製品および産業用配線保護機材</p> <p>■ 利益 前年同一期間(2020年3月期第3四半期)より増加                      情報機器事業および照明機器事業は増益、コンポ-ネット事業は減益で全体として増益 (単位：百万円)</p>					
		2020年3月期 第3四半期	2020年12月期	増減	増減率(%)
売上高		15,423	18,297	2,874	18.6
売上総利益		2,785	3,554	768	27.6
販管費		2,671	2,859	188	7.0
営業利益		114	695	580	506.5
経常利益		122	673	551	451.4
親会社株主に帰属する 当期純利益		178	612	433	242.9
自己資本当期純利益率(%)		1.7	5.3	3.6	-
経常率(%)		0.5	2.4	1.9	-
売上高営業利益率(%)		0.7	3.8	3.1	-
(営業比率)		44%	53%		

2020年12月期の売上高は、  
182億97百万円で、  
前年同期に比べ18.6%の増加となりました。

公共設備関連の道路情報機器と  
トンネル照明器具の受注が順調に  
推移し前年同期に比べ大きく増加致しました。  
一方で、民需関連製品の  
産業用配線保護機材は減少致しました。

当期の営業利益は、6億95百万円で  
前年同期に比べ506.5%の増加、  
経常利益は6億73百万円で、  
451.4%の増加  
親会社株主に帰属する当期純利益は、  
6億12百万円で242.9%の増加と  
なりました。

利益面では、  
公共設備関連の道路情報機器と  
トンネル照明器具の大幅な増収  
民需関連製品のLED照明器具の  
増収により、大幅な増益となりました。

セグメント別の状況 ①情報機器事業		SEIWA			
<p>Information System 情報機器事業</p> <p>2020年12月期 売上高増減比 44.2%</p>					
		2020年3月期 第3四半期	2020年12月期	増減	増減率(%)
売上高		5,883	8,082	2,199	37.4
セグメント利益		△83	489	572	-
受注高		8,751	11,474	2,723	31.1
受注残高		11,060	12,028	967	8.8
売上高	増	期初の受注残高が多く、高速道路向け、一般道路向け共に大増			
利益	増	大幅な増収による増益			
受注残高	増	期中の受注が好調に推移し前年同一期間並み 新型コロナウイルス感染症による影響はなし			

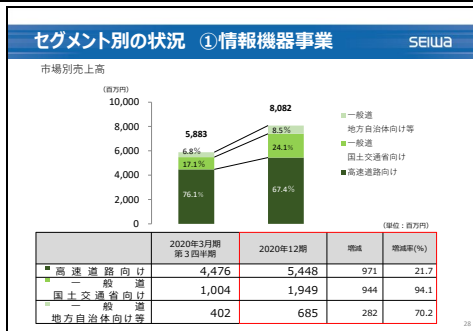
それでは、事業別の状況について  
説明いたします。

情報機器事業全体の売上高は  
80億82百万円で、  
前年同期より37.4%の増加となりました。

利益面では、  
大幅な増収により増益となり、  
本事業の利益は4億89百万円となりました。

受注残高は、  
前年同期と比べて8.8%の増加となりました。

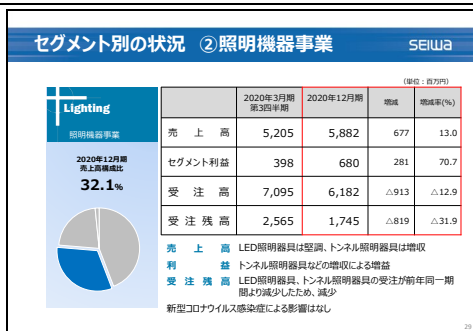
スライド  
29



売上高の内訳ですが、  
主力製品であります道路情報機器においては、  
前年と同様に期初の受注残高が多く、  
公共設備関連の堅調な設備投資を  
背景に期中の受注も順調に推移し、  
高速道路向け、一般道路向けとも  
前年同期に比べ売上高が大きく増加致しました。

この事業におきましては、  
新型コロナウイルス感染症の影響はありませんでした。

スライド  
30

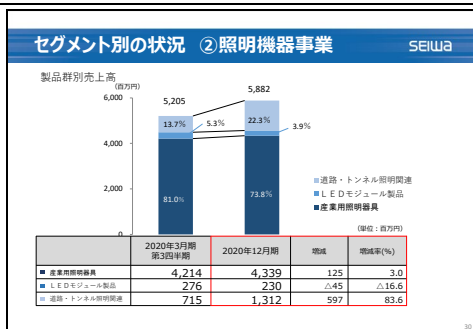


つぎに照明機器事業ですが、  
事業全体の売上高は58億82百万円で、  
前年同期より13%の増加となりました。

利益面では、増収により増益となり  
本事業の利益は6億80百万円となりました。

受注残高は、  
前年同期と比べて31.9%の減少となりました。

スライド  
31



売上高の内訳ですが、  
民間設備関連の産業用照明器具においては、  
LED照明器具の売上が堅調に推移して  
前年同期に比べ増加致しましたが、  
照明用モジュール製品では減少致しました。

産業用照明器具関連の売上高は43億39百万円で、  
前年同期に比べ3%増え、  
事業全体の73.8%を占めております。

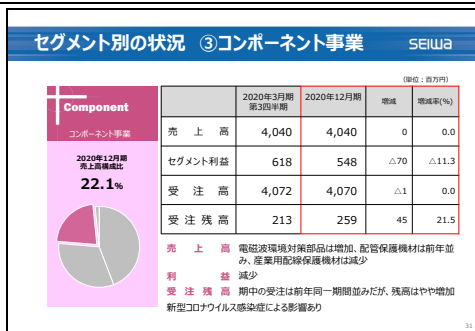
公共設備関連においても、トンネル照明器具を中心に  
前年同期に比べ売上高が増加致しました。

道路・トンネル照明関連の売上高は13億12百万円で、  
前年同期に比べ83.6%増え、  
事業全体の22.3%を占めております。

この事業におきましては、  
新型コロナウイルス感染症の影響はありませんでした。



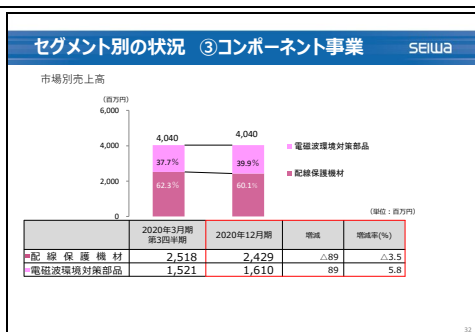
スライド  
32



最後に、コンポーネント事業ですが、  
事業全体の売上高は40億40百万円で、  
前年同期とほぼ同じとなりました。

本事業の利益は5億48百万円で  
前年同期と比べ11.3%の減少と  
なりました。

スライド  
33



売上高の内訳ですが、  
電磁波環境対策部品は  
新型コロナウイルス感染症によって  
一部売上高に影響がありましたが、  
半導体製造装置向けの売上回復など  
により前年同期に比べ増加致しました。

電磁波環境対策部品の売上高は  
16億10百万円で  
前年同期と比べて5.8%増加し、  
事業全体の39.9%を占めております。

エアコン用の配管保護機材は  
前年同期並みとなりましたが  
配電盤や機械装置に用いる  
産業用配線保護機材は  
前年同期に比べ売上高が減少致しました。

配線保護機材の売上高は  
24億29百万円で、  
前年同期と比べて3.5%減少し、  
事業全体の60.1%を占めております。

BSの状況		SEIWA	
	2020年3月期 期末	2020年12月期 期末	増減
資産	29,923	27,391	△2,531
流動資産	22,711	19,676	△3,035
現金及び預金	3,198	2,178	△1,020
受取手形及び売掛金	14,882	12,762	△2,119
固定資産	7,211	7,714	503
負債	13,730	15,340	△1,610
流動負債	16,906	13,970	△2,935
支払手形及び買掛金	6,096	4,719	△1,377
短期・1年内返済予定長期借入金	8,075	7,114	△960
固定負債	1,824	1,369	△454
純資産	11,192	12,050	858
利益剰余金	3,016	3,431	415
非支配株主持分	25	23	△2
総資産	29,923	27,391	△2,531
<自己資本比率>	37.3%	43.9%	6.6PT

■ (資 産) 売上債権の回収により受取手形及び売掛金が減少  
 ■ (負 債) 仕入高の減少により仕入債権が減少、返済により短期借入金および長期借入金が増加  
 ■ (純資産) 親会社株主に帰属する当期純利益の計上により利益剰余金が増加

それでは、連結貸借対照表について、概要を説明いたします。

2020年12月期の流動資産は196億76百万円で2020年3月期に比べ30億35百万円の減少となりました。

減少の主な理由は売上債権の回収により受取手形及び売掛金が減少したことによるものです。

固定資産は77億14百万円で2020年3月期に比べ5億3百万円の増加となりました。増加の主な理由は、株価の上昇により投資有価証券及び退職給付に係る資産が増加したことによるものです。

流動負債は139億70百万円で2020年3月期に比べ29億35百万円の減少となりました。減少の主な理由は仕入高の減少により支払手形及び買掛金が減少したことに加え、返済による短期借入金の減少によるものです。

固定負債は13億69百万円で2020年3月期に比べ4億54百万円の減少となりました。減少の主な理由は長期借入金の返済が進んだことによるものです。

純資産合計は120億50百万円で2020年3月期に比べ8億58百万円の増加となりました。増加の主な理由は親会社株主に帰属する当期純利益の計上による利益剰余金の増加及び、株価の上昇によりその他有価証券評価差額金が増加したことによるものです。

スライド

35

CFの状況		SEIWA
※当期は9か月決算のため、対前期比較は記載しておりません。		
■ 営業キャッシュ・フロー	売上債権の減少等により11億円の獲得	
■ 投資キャッシュ・フロー	有形固定資産及び無形固定資産の取得等により4億円の使用	
■ 財務キャッシュ・フロー	短期借入金及び長期借入金の返済により17億円の使用	
(単位: 百万円)		
	2020年12月期	
営業キャッシュ・フロー	1,116	
税金等調整前当期純利益	621	
減価償却費	423	
売上債権の増減額 (△は増加)	2,120	
仕入債権の増減額 (△は減少)	△ 1,372	
投資キャッシュ・フロー	△ 415	
有形固定資産の取得による支出	△ 410	
無形固定資産の取得による支出	△ 199	
財務キャッシュ・フロー	△ 1,711	
短期借入金の純増減額	△ 810	
長期借入金の返済による支出	△ 723	
現金及び現金同等物 期中増減額	△ 1,020	
現金及び現金同等物 期末残高	1,960	

連結キャッシュフローについて、概要を説明いたします。

営業活動の結果、  
獲得した資金は11億16百万円となりました。  
これは、売上債権の回収により  
受取手形及び売上債権の減少が  
21億20百万円あったことによるものです。

投資活動の結果、  
使用した資金は4億15百万円となりました。  
これは、有形固定資産及び無形固定資産の  
取得による支出が6億10百万円あったことによるものです。

財務活動の結果、  
使用した資金は17億11百万円となりました。  
これは短期借入金及び  
長期借入金の返済が  
15億33百万円あったことによるものです。

スライド

36

2021年12月期業績見通し		SEIWA	
■ (売上高) 242億円	(利益) 営業利益 9億円 経常利益 8億5千万円 親会社株主に帰属する当期純利益 6億5千万円		
次期 (2021年1月1日から2021年12月31日の12か月間) は、当期の業績 (2020年4月1日から2020年12月31日の9か月間) と異なるため、対前期比較情報は記載しておりません。			
(単位: 百万円)		設備投資・研究開発 等 (単位: 百万円)	
	2021年12月期		2021年12月期
売 上 高	24,200	設備投資	700
情 報 機 器	11,000	減価償却費	600
照 明 機 器	7,250	研究開発費	500
コ ン ポ ー ネ ー ト	5,600		
そ の 他	350		
営 業 利 益	900		
経 常 利 益	850		
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益	650		

2021年12月期の業績見通しについて説明いたします。

売上高は、242億円を予想しております。

利益に関しましては、営業利益 9億円、  
経常利益 8億50百万円を予想しております。

また親会社株主に帰属する当期純利益は、  
6億50百万円を予想しております。

設備投資は、2021年5月に運用開始予定の  
10m法電波暗室にかかる建設、設備費用として  
4億円を見込み、そのほかは、器具備品と照明器具、  
樹脂成型品の金型などとなります。

研究開発活動につきまして、  
当社グループでは、「省エネルギー」と「人と環境を考えたものづくり」を基本として、各分野にわたって、  
「環境配慮」をキーワードにした研究開発に取り組んでおり、今後の事業の中心となる製品の研究、開発を進めてまいります。

スライド

37

**2021年12月期業績見通し** SEIWA

**Information System**  
情報機器事業

売上高 110億円

国土強靱化やインフラ整備のための公共事業の継続が予想される前年と同様に期初の受注残高が多い

受注残高	2018年3月期末	2019年3月期末	2020年3月期末	2020年12月期末
	4,231	8,192	8,635	12,028
	2018年3月期 前3月累計	2019年3月期 前3月累計	2020年3月期 前3月累計	2020年12月期末
	5,022	7,599	11,060	12,028

- ・受注済みの案件について、効率的な生産と施工
- ・新規受注の確保

<参考>  
受注済みの工事進行基準物件のうち、2021年12月までに工期終了予定のもの  
・西日本高速道路 関西東地区 道路交通情報施設更新工事（令和元年度）  
・中日本高速道路 東京支社管内休憩施設案内表示設置工事  
・国土交通省 東北地方整備局 尾計要地区外非常警報設備工事 他

それでは、各事業の2021年12月期の見通しについて説明いたします。

情報機器事業は、売上高110億円を予想しております。

2020年12月期と同様に期初の受注残高が120億円と多く、受注済み物件につきましては、効率的な生産と施工を実施してまいります。

また、今年度も国土強靱化対策や、各高速道路会社の高速道路リニューアルプロジェクトによる発注も予定されており、新規受注物件の確保に努めてまいります。

スライド

38

**2021年12月期業績見通し** SEIWA

**Lighting**  
照明機器事業

売上高 72億50百万円

公共設備関連は情報機器事業と同様に公共事業の継続が予想されるため、トンネル照明器具の新製品を中心とした提案営業活動により受注の確保に努める

- ・LEDトンネル照明器具の受注確保

<参考>  
受注済みの工事進行基準物件のうち、2021年12月までに工期終了予定のもの  
・国土交通省 東北地方整備局 尾計要地区外非常警報設備工事 他

海外向け防塵形LED照明器具

民間設備関連は新型コロナウイルス感染症による経済活動抑制の影響を受け予断を許さない状況が続くと予想されるが、LED照明器具の新製品の拡販と海外展開に努める

- ・光源の置き換え需要によるLED照明器具売上の確保
- ・海外向け防塵形LED照明器具フルラインアップ化による拡販

照明機器事業は、売上高72億50百万円を予想しております。公共設備関連では、情報機器事業と同様に公共事業の継続が予想されるため、トンネル照明器具の新製品を中心とした提案営業活動により、受注の確保に努めてまいります。

民間設備関連では、新型コロナウイルス感染症による経済活動抑制など予断を許さない状況が続くと予想されますが引き続き、光源置き換え需要によるLED照明器具の新製品の拡販と海外展開に努めてまいります。

スライド

39

**2021年12月期業績見通し** SEIWA

**Component**  
コンポーネント事業

売上高 56億円

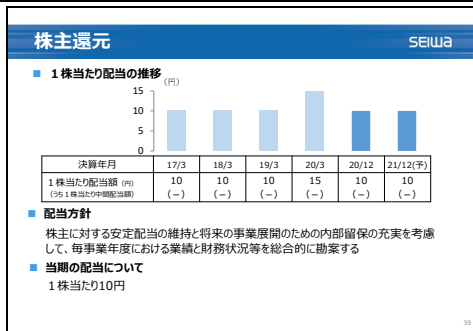
新製品の投入や新規事業の開拓により電磁波環境対策部品を中心に売り上げ増加に努める

- ・電磁波環境対策部品の需要拡大
- ・充実した測定設備の活用による新製品開発

コンポーネント事業は、売上高56億円を予想しております。

電磁波環境対策部品については材料開発、要素技術開発を加速させ、自動車関連、インフラ関連、医療機器、装置機器などに展開し、産業用配線保護機材については材料開発、複合製品開発を中心に、通信、機械装置産業、防災セキュリティ市場、農業関連などに展開し、売上増加に努めてまいります。

スライド  
40



次に株主還元について説明いたします。

当社の配当方針は、  
株主に対する安定配当の維持と、  
将来の事業展開のための内部留保を考慮して、  
毎事業年度における業績と財務状況などを  
総合的に勘案することとしております。

2020年12月期の配当は、  
上記の方針と今後の資金需要を勘案し、  
1株当たり10円とさせていただきました。

2021年12月期の配当は、  
1株10円を予定しております。

スライド  
41

**問合せ先・免責事項** SEIWA

**星和電機株式会社**

TEL: 0774-55-8181  
FAX: 0774-58-2034  
E-mail: info@seiwa.co.jp  
<https://www.seiwa.co.jp>

当ウェブサイト・資料には、2021年3月5日時点の将来に関する範囲・見直し・計画に基づき作成が含まれています。世界経済・社会状況・為替変動等に関するリスクや不確定要素により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。

われわれ星和電機株式会社は、  
安心・安全・便利で経済的な  
次世代のインフラ分野、  
クリーン・経済的な  
エネルギー需給分野の  
市場において  
既存技術と複合技術を用いて  
ニッチ戦略を踏襲しながら、  
新たな市場を探求いたします。

また、お客様へ新たな価値を  
創造するために、  
ソリューションを展開し、  
社会に貢献して参ります。

以上で当社からの説明は  
終わらせていただきます。  
ありがとうございました。